

開催趣旨

東日本大震災被災地などの各地で、災禍を後世に伝えるための遺構整備が行われています。今年度から、熊町小学校等の、大熊町の中間貯蔵施設内の遺構についても、その保存活用についての検討が始まります。私たちとしては遺構を、そのままの場所で解体せずに保存することに、大きな意味があると考えています。

中間貯蔵施設内にある熊町小学校校舎等の遺構は、人々のふるさとと日常生活を、唐突に奪った原子力災害の惨禍を示す学びの場です。また、様々な建物の解体が進む大熊町において、卒業生と地元町民にとって「ふるさとを感じられる唯一の場所」であるという声もあります。

卒業生にとって唯一無二の「学び舎」であり、また後世に原子力災害の惨禍を伝える貴重な「学び舎」でもある遺構について、その実物を保存する意味と利活用の方法を、ご覧いただいた皆さまとともに考えるため、今回のパネル展示を実施します。

熊町小学校卒業生や地域住民、震災学習のために訪問した福島大学生にとって、熊町小学校がどのような場所なのか、一人一人の言葉で表現しました。ぜひ、ゆっくりご観覧ください。

なお、本企画に携わってくださった関係者の皆様、「CREVAおおくま」での展示をご快諾いただき、また後援いただいた大熊町役場および同町教育委員会に、心より感謝申し上げます。

多くの方が熊町小学校の今後の保存活用について考える機会となれば幸いです。

〔主 催〕 (一社)大熊未来塾 おおくまふるさと塾 福島大学地域未来デザインセンター
〔後 援〕 大熊町 大熊町教育委員会